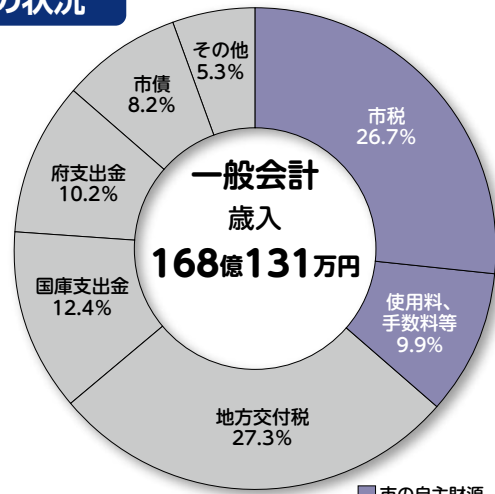


45年連続で黒字

安全・安心、教育環境等を積極的に整備

市の平成28年度各会計決算案が10月16日、市議会
で認定されました。一般会計は、歳入168億13
1万円、歳出167億4615万円。残額から平成
29年度へ繰り越す財源を差し引いた実質収支は78
9万円で、45年連続の黒字となりました。



■市の自主財源 36.6%
■国や府への依存財源 63.4%

国からの収入が増加

28年度一般会計の歳入は、前年度から3354万円(0.2%)増となりました。自主財源の柱である市税収入は、前年度比4.8%増。企業収益の改善や設備投資の増加により法人市民税や固定資産税が伸びました。また、国庫支出金も年金生活者等臨時福祉給付金などにより9.6%増加しました。

特別会計も黒字決算

28年度決算の主な使い道は、主要施策成果マップのとおりです。詳しくは「主要施策の報告書」で公表しています。ホームページや市役所情報公開コーナーをご覧ください。

特別会計10会計は、歳入131億878万円、歳出128億3987万円でした。左表。実質収支は2億3405万円の黒字。10会計とも黒字または収支ゼロです。

また、公営企業会計のうち上水道事業会計は34年連続黒字。

経常収支比率は88.5%

病院事業会計は、制度変更に伴う医療公社会計への退職給付引当金の一括交付等により2年ぶりに赤字となりました。

市債(借金)残高は前年度比3497万円増の133億6542万円になりました。また、基金(貯金)残高は前年度比5億1446万円減の42億2577万円です。財政の弾力性を示す経常収支比率は0.8ポイント悪化し88.5%となっています。

歳入の状況

普通建設事業費が増

歳出は、同2048万円(0.1%)増加しました。第5次統部市総合計画・後期基本計画のスタート年として

平成28年度主要施策成果マップ

平成28年度の会計別決算

区分	歳入総額	歳出総額
一般会計	168億131万円	167億4615万円
特別会計		
市立診療所等	3899万円	3899万円
農林業者労働災害共済	344万円	188万円
国民健康保険	41億9328万円	41億9291万円
介護保険	47億6708万円	45億4626万円
後期高齢者医療	5億3209万円	5億2079万円
駐車場	2384万円	2384万円
簡易水道	8億871万円	8億871万円
下水道事業	19億7074万円	19億3588万円
地域排水事業	7億426万円	7億426万円
住宅・工業団地事業	6635万円	6635万円
区分	事業収益	事業費用
公営企業会計		
上水道事業	8億427万円	6億9260万円
病院事業	63億3710万円	70億9009万円

用語説明

《経常収支比率》
率が低いほど自由に使える資金が多いことを示す指標。一般財源に占める福祉施策経費や人件費など義務的な経費の割合です。

《一般財源》
市の裁量で使える財源。市税収入や国からの地方交付税などのことです。使途が定められている国庫支出金などの

《実質公債費比率》
収入は特定財源といえます。借金の額が適正かどうかを判断する数値。一般財源に占める借金返済額の割合です。

《将来負担比率》
市が将来的に負担しなければならぬ可能性のある、実質的な借金残高などを指標化したもの。一般会計に加え、各特別会計や公社、第3セクターも含めた借金を基づき算出します。